

目次

第1章 長い章見出し	1
1.1 ブロック命令	1
1.1.1 ソースコード	1
1.1.2 図	2
1.1.3 表	3
1.1.4 囲み記事	5
1.2 LaTeX 式	6
1.3 インライン命令	6
1.3.1 書体	6
第2章 章見出し	9
2.1 節見出し	9
2.1.1 項見出し……に脚注を入れると <i>TeX</i> ではエラー	9
2.2 長い節見出し	10
2.2.1 長い項見出し	10
採番しない項見出し	10
2.2.2 採番する項見出し	10
<code>nodisp</code> で隠れた見出し	10
2.3 簡条書き	10
2.3.1 ナカグロ簡条書き	11
2.3.2 番号簡条書き	11
2.3.3 用語リスト	11

第 1 章 長い章見出し

1.1 ブロック命令

1.1.1 ソースコード

採番付きリストの場合は `list` です (リスト 1.1)。¹⁾

リスト 1.1: **Ruby** の `hello` コード

```
puts 'Hello, World!'
```

行番号と採番付きのリストは `listnum` です。

リスト 1.2: 行番号はリテラルな文字で特に加工はしていない

```
1: class Hello
2:   def initialize
3:     @msg = 'Hello, World!'
4:   end
5: end
```

採番なしは `emlist` を使います。キャプションはあったりなかったりします。

```
printf("hello");
```

Python 記法

```
print('hello');
```

行番号付きのパターンとして `emlistnum` があります。

```
1: printf("hello");
```

Python 記法

```
101: print('hello');
```

ソースコード引用を主ターゲットにするのには一応 `source` というのを用意しています²⁾。

1) コードハイライトは外部パッケージに委任しています。TeX では `jlisting`、HTML では `Rouge` ?

2) 書籍だと、いろいろ使い分けが必要なんですよ…… (4、5 パターンくらい使うことも)。普通の用途では `list` と `emlist` で十分だと思いますし、見た目も同じでよいのではないかと。TeX の抽象タグ名は変えてはいます。

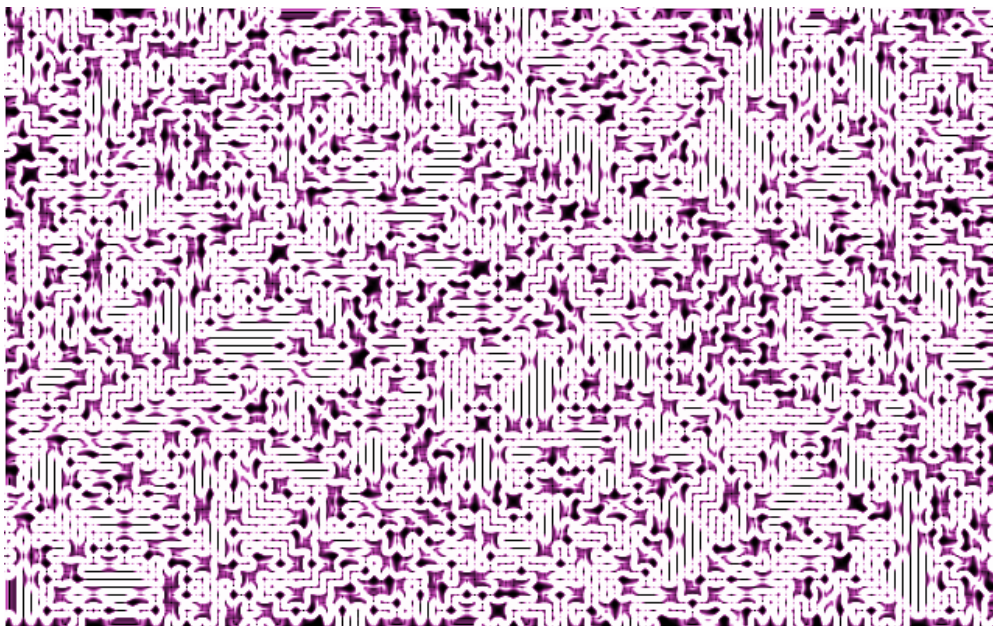


图 1.2 0

図: 採番なしキャプション

A	B	C
D	E 太 字 <i>bolditalic</i> イ タ等幅 code	F G
H	I	長いセルの折り返し ■□■□■□■ □■□■□■□■□■□■□■ □■□■□■□■□■□■□■ □■□

TeX の普通のクラスファイルだと、列指定は l,c,r,p (幅指定+左均等) しかないのですが、幅指定+左寄せ (均等なし)、幅指定+中寄せ、幅指定+右寄せの指定ができると嬉しそうです。

あとは縦に長い表が TeX だとそのままはみ出してしまうので longtable があるけれどもそれはまた問題がいろいろあり……。

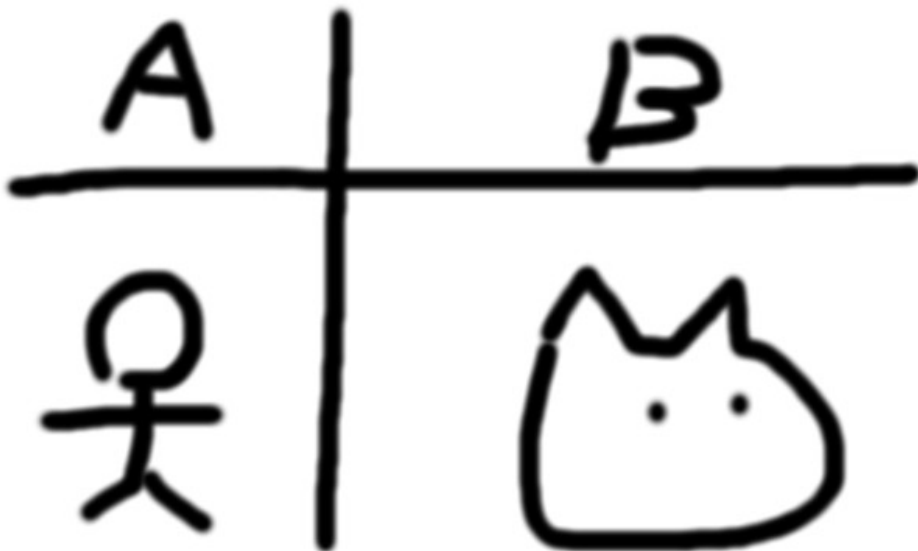
採番はしたくないけれどもキャプションは指定したいという場合は emtable があります。

表 1.2 *

キャプションを指定したいが採番はしたくない表

画像にしておいて貼り付けたほうがよさそうな場合は `imgtable` を使います（表 1.2）。

表 1.3 ポンチ表



1.1.4 囲み記事

`//{~//}`の囲み記事の中には段落のみしか入らないものと想定します（箇条書きなどを入れたい場合はユーザーの責任で適宜、変換後ソースを加工してもらうことを前提とします）。

引用は `quote` で表現します。上下アキ、左インデント（2文字くらい？）が入るのが一般的でしょうか。

ここに引用文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2行目の引用文。

中寄せは `centering` です。

中寄せ本文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2行目の中寄せ本文。

右寄せは `flushright` です。

右寄せ本文。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

2行目の右寄せ本文。

ノート `note`。以降、キャプションあり/なしのパターンがあります。表現については結局紙面デザインに応じて千差万別になるものだと思いますので、基本デザインとしては何か囲み要素だとわかって、カスタマイズしやすければよい、という程度です。

NOTE [

[] ノートの例太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`] ノート 1。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code` ノート 2。

NOTE [

] ノート。太字 ***bolditalic*** イタ等幅 `code`

1.2 LaTeX 式

LaTeX 式は TeX 紙面以外は保証されません。EPUB では MathML (`mathml: true`) を使えますが、表現や互換性が不足しており、LaTeX をバックエンドとして画像化する `imgmath: true` のほうがよさそうです。

$$\sum_{i=1}^n f_n(x)$$

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

式採番がほしいケースは多々発生しているので、標準の文法を拡張する必要があるように思っています（現状、`review-ext.rb` でなんとかしていることが多いです）。

段落中の式は $E = mc^2$ というシンプルなものならまだよいのですが、 $\sinh^{-1} x = \log(x + \sqrt{x^2 + 1})$ のような形だと}のエスケープで読みにくめです。今のところ Ruby にあるようなフェンス文法を実装するのも難しいですね。 $\sum_{i=1}^n \sum_{i=1}^n$

1.3 インライン命令

1.3.1 書体

本文での……キーワードキーワード (`keyword`)⁶⁾、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 `tt` 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線u下線、等幅 `code` 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等

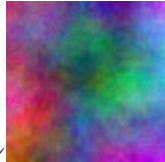
6) キーワードのカッコは太字にしないほうがいいのかと思います（手元の案件では太字にしないよう挙動を変えてしまっているほうが多い）。

幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インラインアイコン



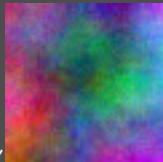
傍点@<bou>{bou 傍点}、ルビ@<ruby>{愕然, がくぜん}、縦中横@<tcy>{90}、は TeX では現状、別パッケージが必要です。

- kw, b, strong, em は同じ書体でよいでしょう。
- tt, code は同じ書体でよいでしょう。
- ami はコードブロックの中で使うことを想定しています。
- 箇条書き内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線u下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インライ



ンアイコン

表内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線u下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字



指定あ、インラインアイコン

コードブロック内では対応装飾は減らしてよいと考えます。代わりに balloon が追加されます。

キャプション内での……キーワードキーワード (keyword)、太字 **b** 太字、イタリック *i* イタリック、等幅 tt 等幅、強調 **strong** 強調、強調 **em** 強調、下線u下線、等幅 code 等幅、等幅太字 **ttb** 等幅太字、等幅イタリック *tti* 等幅イタリック、網カケ ami アミ、16 進 UTF 文字指定あ、インラインア



アイコン

コードブロック内での……

太字 **b** 太字

イタリック *i* イタリック

下線u下線

網カケ ami アミ ←ふきだし説明

第2章 章見出し

章にはリードが入ることがあります。図版や表が入ることはまずありませんが、太字くらいは使われることも。

複数段落になる可能性もあります。

段落は普通書き連ねていくだけです。段落間は空行を含めます。

こんなかんじ

です。空けない場合は、1つの段落として結合されます。TeXと違って文字種によって良い塩梅にスペースを入れてくれたりはしないので、特に英文の場合は注意が必要です。this is a pen. と「apen」になってしまいます。行頭行末のスペース文字も詰められてしまうので、this is a pen. は途中改行せずに記述しなければなりません。

通常段落は「字下げ」することを想定して表現されますが、たとえばコードをまたぐ

```
'hello!' 'こんにちは World!'
```

ようにしたい場合は、またいだ後の段落前に「//noindent」を入れておくことで字下げを抑止できます（そもそもこういうまたぎ行為は筆者の好みではありませんが）。

2.1 節見出し

=の数で見出しレベルを表しますが、最大=====の5レベルまでの見出しがあり得ます（内部的にはレベル6までであるけれども非推奨で、一部のビルダでは動かない）。

- = : 章および部
- == : 節
- === : 項
- ==== : 段
- ===== : レベル5見出し

「X.X.X」のように採番するか否かは `config.yml` の `secnolevel` パラメータで変動します¹⁾。デフォルトは2（X.X まで）ですが、このリファレンスドキュメントでは一応4（X.X.X.X まで）採番を試みています。

1) 前述したように `PREDEF`、`POSTDEF` の場合は採番しません。

2.1.1 項見出し……に脚注を入れると *TeX* ではエラー

²⁾という脚注を見出し箇所に入れようとする *TeX* では (footnotemark/text 化しない限り) エラーになります。見出しにそういうものを入れるべきではない、といえはそれまでですが、見出しにはインラインでの装飾タグが入る可能性があります。

2.1.1.1 段見出し

ここまで採番することがあるケースがあるか、というとたまにあったりします。

レベル 5 見出し さすがにこのあたりのレベルは採番はしないですね。紙面では、:による description 箇条書きでは大きくなりすぎるような規模の場合にこのレベルの見出しを代用することがあります。

あくまでも見出しなので、見出しの行にそのまま段落が続いてしまう見た目は期待と違います。

2.2 長い節見出し

2.2.1 長い項見出し

2.2.1.1 長い段見出し

長いレベル 5 見出し

また、nonum あるいは notoc を付けた見出しは、章であっても採番されません。前者 nonum は採番なし・目次を含める、後者 notoc は採番なし・目次にも含めないという意味です。

採番しない項見出し

2.2.2 採番する項見出し

nodisp を付けると、紙面には表示されず目次には含まれる見出しとなります (採番なし)。節以下のレベルで使うことはほとんどなく、たとえば「献辞」のように紙面には見出しを出したくないけれども目次には入れておきたい前付名などに使うことを想定しています。

2) 本当は項の脚注

2.3 箇条書き

2.3.1 ナカグロ箇条書き

ナカグロ箇条書き (HTML の *ul*、TeX の *itemize*) はスペース+*+スペースで表現します。インラインタグが含まれることがあります。

- 箇条書き 1
- 箇条書き 2 太字 **bold** *italic* イタ等幅 `code`
入れ子ナカグロ箇条書きもあります。
- 箇条書き 1
 - 箇条書き 1-1
 - 箇条書き 1-2
 - * 箇条書き 1-2-1
- 箇条書き 2
 - 箇条書き 2-1

箇条書きの間に別の要素 (ぶらさがりの段落など) が入ることは標準では対応しておらず、どうしてもそういうのが必要な場合は途中でフックして変換後ソースを書き換えることになります。

2.3.2 番号箇条書き

番号箇条書き (HTML の *ol*、TeX の *enumerate*) はスペース+数字.+スペースで表現します。

- 1 箇条書き 1
- 2 箇条書き 2 太字 **bold** 等幅 `code`

`olnum` で一応番号が変更可能なことを期待していますが、Web ブラウザだとだめなことが多いかもしれません。

- 10 箇条書き 10
- 11 箇条書き 11

2.3.3 用語リスト

用語リスト (HTML の *dl*、TeX の *description*) はスペース+:+スペースで見出しを、説明は行頭にタブかスペースを入れて表現します。

Alphabold 太字 *italic* イタ等幅 `code`

DEC の作っていた **RISC CPU**。 *italic* イタ等幅 `code` 浮動小数点数演算が速い。

POWER

IBM とモトローラが共同製作した RISC CPU。

派生として POWER PC がある。

SPARC

Sun が作っている RISC CPU。CPU 数を増やすのが得意。

bold 太字 *italic イタ*

```
: Alpha@<b>{bold 太字}@<i>{italic イタ}@<tt>{等幅 code}
    @<i>{DEC}の作っていた@<b>{RISC CPU}。@<i>{italic イタ}@<tt>{等幅 code}
    浮動小数点数演算が速い。

: POWER

    IBM とモトローラが共同製作した RISC CPU。@<br>{}
    派生として POWER PC がある。

: SPARC

    Sun が作っている RISC CPU。
    CPU 数を増やすのが得意。←ふきだし説明
```

説明文に複数の段落を入れることは構文上できないので、@
{}を入れて改行することで代替します。